

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2026.03.No343

3月号

目次

- BIM図面審査の総まとめセミナー……1
- 北海道ヘリテージ・マネジメント
専門職育成講座活動報告……2
- 北見市庁舎と都市再生事業……4
- 女性の窓……6
[No.120 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]
- Coffee Break……7
- information……8

URL <https://www.h-ab.com/>

BIM図面審査の総まとめセミナー

BIM推進特別委員会 委員長 梅原博 大 (札幌支部)



2026年春から建築確認におけるBIM図面審査が開始されます。北海道建築士会BIM推進特別委員会ではその取り組みに対する最新動向の総まとめとなるようなセミナー（doBIM Season9 The Final seminar）を2025年12月12日に開催しました。北海道建築士事務所協会IT委員会、北海道建築士事務所協会札幌支部業務委員会、日本建築家協会北海道支部との共催という形で総まとめにふさわしいものになりました。

国土交通省住宅局建築デジタル推進官の佐々木雅也氏のオンラインによるご挨拶に始まり、国立研究開発法人建築研究所の武藤正樹氏、一般財団法人建築行政情報センターの荒川聡郎氏というこの分野において第一線にいらっしゃる講師陣をお迎えし、BIM図面審査の準備状況と今後の展望やそれを実現させるための環境について余すところなく講演いただきました。

その後、BIMソフトウェアメーカーであるオートデスク株式会社、グラフィソフトジャパン株式会社、ベクターワークスジャパン株式会社（フローワークス株式会社）、福井コンピューターアーキテクト株式会社の方々にそれぞれの持つBIMソフトの対応状況や今後予定している機能について、詳しくご説明いただきました。このような縦断的・横断的なセミナーを開催できるのは建築士会ならではのことでないでしょうか。

今回のセミナーに参加された方はBIM図面審査についての全てを聞いたのではないかと思います。



セミナー受講風景

9月に行ったRevitハンズオンセミナーでは羽田空港の豪雨により急遽オンラインセミナーに切り替えることになりましたが、今回は新千歳空港の大雪により羽田空港からの便が多数欠航となり、東京からお迎えする講師陣や司会の大門前委員長も来札に大変なご苦労をされました。今回もオンラインセミナーに切り替わるかと危惧しましたが、なんとか会場にお越しいただき、委員全員安堵しました。大門前委員長の総仕上と言えるセミナーとなりました。

2026年の活動についてはこれからですが、全道大会でのセミナー内容を始めとして、どのようなテーマがBIMの普及・促進に役立っていくのかを考えていくことになります。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



BIMソフトウェアの説明

2025年度北海道ヘリテージ・マネジメント 専門職育成講座（第10期）ほかの活動報告



ヘリテージマネージャー特別委員会委員 委員長 杉山友和（札幌支部）

当委員会では、北海道における歴史的建造物及び歴史的な地域資産の保存活用を実践する人材を育成することをひとつの大きな目的とし、活動を行っております。2014（平成26）年度の開始から2023年までに、ヘリテージマネージャー（建築士・建築施工管理技士・学芸員等の資格を有する人材が対象）148名、ヘリテージコーディネーター（上記以外の資格を有する人材や一般の方が対象）61名の合計209名の人材が誕生しております。その育成の柱である「北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座」は他団体と共に運営を行っておりますが、2024（令和6）年度、運営資金の関係より開催を断念せざるを得ない状況となり、残念ながら開講に至りませんでした。連続での休講は免れたいという関係者の思いから、2025年はこれまで運営資金として頼っていた文化庁への補助金申請を止め、自己資金のみでの開催を検討することとなりました。経費の削減や受講料の値上げにて運営資金を検討し受講生募集を開始しましたが、開講するための必要受講生数が集まらず一度は開講を断念せざるを得ない状況もありました。そこから関係者の皆様のご協力もあり、経費を再度見直し、最終的に13名の受講生にて、節目となる第10回目の開講に至りました。今回の活動報告では、前述の専門職育成講座、計2回実施しましたフォローアップ講座（主に専門職育成講座の修了生を対象に行う勉強会）、また、委員会として調査を受託しました道内にある歴史的建造物の評価書作成業務について、報告させていただきます。

◎2025（令和7）年度北海道ヘリテージ マネジメント専門職育成講座（第10期）

期間：2025年8月30日～
2025年11月15日

講座日数：計12回

受講生数：

ヘリテージマネージャー講座7名/ヘリテージコーディネーター講座6名
修了生数：13名（内訳は同上）

歴史的建造物や歴史的な地域資産の散逸・取り壊しを防ぐために、保存活用の知識を学び、地域資産を活かしたまちづくりを支える専門家の育成を行うことが本講座の目的です。建築士・学芸員等の資格を有する方を対象とした「ヘリテージマネージャーコース（受講時間60時間）」と、その他の資格や一般の方を対象とする「ヘリテージコーディネーターコース（受講時間30時間）」の2つのコースがあります。2025年度もこれまでと同様に、各分野で活躍されている専門家の先生を講師としてお招きし、座学及び実習にて専門知識を学びました。2025年度は講座開始時期が遅れ短期間での履修となり、受講生の皆様にはご負担をかけましたが、熱心な受講姿が見られ、各班毎による最終発表においても、素晴らしい調査報告を発表いただきました。修了後の登録式は12月20日（土）、豊平館2階広間にて実施されました。修了生の皆様の今後の活躍を期待いたします。



初回講義の様相



調査実習風景

◎第1回フォローアップ講座 in 北海道開拓の村 （8月2日（土）開催）

『「旧北海中学校」改修現場見学～北海道開拓の村での建造物保存修理を通して北海道における歴史的建造物保存を考える』

講師：鈴木明世氏（北海道博物館研究職員）

（株）アトリエアク・山崎建設工業（株）

・武部建設（株）改修工事ご担当者様

見学先：「旧北海中学校」改修現場

参加者：20名（スタッフを含む）

北海道開拓の村内に移築保存されている明治41年頃に建築された旧北海中学校の本館部分。創立は明治38年、前身は明治18年に設立された私立北海英語学校で、外観意匠は明治半ばから大正期の官庁や学校建築の姿が見られます。北海道の過酷な環境下で傷んだ建物の保存改修工事を行っている現場を見学させていただき、本州の保存修理技術をそのまま活用できない北海道での難しさを、具体的な事例を目の前にしながら工事ご担当者様からのご説明にて学



「旧北海中学校」保存修理現場見学

びました。歴史的建造物の保存修理に関わる技術者・職人の不足も大きな問題点です。

◎第2回フォローアップ講座 in 紋別

(11月22日(土)・23日(日)開催)

『紋別市の歴史的建造物見学会』

11/22見学先：「三室番屋」「cafe's本舗(旧松田邸)」

11/23見学先：「紋別武徳殿」「旧草鹿邸」

案内人：「三室番屋」

NPO法人三室番屋復活プロジェクト 高野昭一氏

自然ボランティア団体「コムケの会」会長 大島氏

案内人：「旧草鹿邸」 草鹿あゆみ氏

参加者：6名(スタッフを含む)

11/22(土)のコムケ湖湖畔に建つ「三室番屋」では、昭和16年、サケ・マス漁を行う漁師の宿泊兼作業場として番屋が建築されました。昭和58年まで利用され、その後空き家の期間を経て平成18年「三室番屋復活プロジェクト」が発足し、建物の維持管理を行ってきました。令和3年NPO法人化され、コムケ湖の自然と番屋の歴史遺産を残そうと活動が展開されています。湖畔に佇む番屋の趣は、往時を想像させる佇まいでした。また「旧草鹿邸」は農業経営等に従事した草鹿犀之介を始めとする草鹿家の居宅であり、畜産指導など地域の農業発展に寄与した貴重な遺構であることがわかりました。また草鹿家様一族の歴史もとても興味深いものがありました。本講座は参加募集期間が短く、時期的にも参加検討が難しい時期となってしまう参加者は少数でしたが、紋別



旧草鹿邸前 参加者記念撮影

の歴史とその歴史を支えた歴史的建造物を知る良い機会となりました。本講座をご支援いただきました紋別支部の皆様にはこの場を借りて、お礼申し上げます。

◎令和7年度歌志内市「悲別ロマン座」建築物評価書作成業務

調査業務期間：2025年8月1日～2025年12月31日

調査実施日：①2025年10月8日及び9日

②2025年10月22日

計2回

「悲別ロマン座」は倉本聰氏製作のドラマ「今日、悲別で」の舞台として全国的に名の知れた建築物ですが、もとは「住友上歌会館」として炭鉱町の福利厚生施設(映画館・集会場)として昭和28年に建設されました。設計者は渡邊洋治(久米建築事務所・現久米設計)です。石炭で栄えた時期を経て、1971年頃には閉館、廃屋状態となり取り壊しも検討されたようです。前述のドラマの舞台となったことをきっかけに、再度注目されることになりました。積雪で屋根が破損していたこともあり、昭和62年、大規模な改修工事が実施され、屋根の破損が大きい建物中間の「客席部分」を解体し、道路側の「ホール棟」と奥山側の「ステージ棟」に建物が分断され、

今日まで活用されてきていました。歌志内市は、昨年2025年に日本遺産「炭鉄港」の構成文化財に「悲別ロマン座」の認定を受けるあたり(令和7年7月31日追加認定)、今後の活用にあたり建物の評価を当委員会で相談を受け、調査を実施する流れとなりました。調査は当委員会委員のほか建築士会所属のヘリマネ修了生のご協力も仰ぎ、「悲別ロマン座」に関して①歴史的な経緯やその価値評価、②劣化状況を含めた現状の確認を目的とし、第三者の立場から客観的な評価を行いました。建物の劣化度調査においては、現調による建物現況図面作成、目視による劣化度調査に加え、コンクリート強度調査(コンクリートハンマー打撃試験)、コンクリート中性化試験、アスベスト含有調査試験も実施しております(外注調査にて実施)。調査の結果、建物には一定の耐久性を確認したものの(昭和62年の改修時に屋根に鉄骨材での補強がなされている等)、一番難しいのが建物を利活用する際の法的な根拠でした。調査評価業務は予定期間で無事完了し、12月末日、最終報告書を歌志内市へ提出しました。

当委員会としましては、今後このような評価調査(耐震診断などの前段調査)を継続的に実施し、歴史的建造物の利活用で悩む道内自治体の皆様や建物所有者様の一助になればと考えております。



現在の悲別ロマン座



軒天アスベスト調査の様相

北見市庁舎と都市再生事業

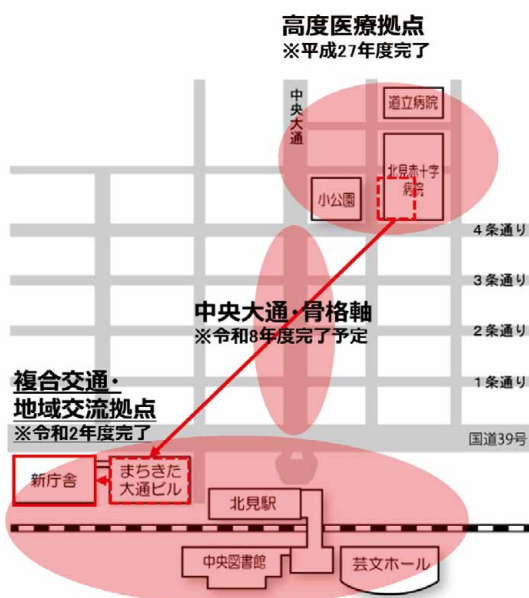


北見市都市建設部建築指導課 建築安全担当課長 酒井 幸治

1. はじめに

北見市庁舎は、令和3年1月4日に供用を開始し、5年が経過したところである。今回は、庁舎に加え都市再生事業や市役所の窓口業務についても紹介していきたい。

市は、都市機能を集積し、コンパクトなまちづくりを実現するため、平成22年度に北見市都市再生基本構想を策定した。この基本構想では、下記に示す2拠点1軸を都市再生の先導的な役割を担う地区として位置付け、各プロジェクトが進められている。



市庁舎は、「つどい・にぎわい・つながる」市民のための庁舎を基本理念に、市内11か所に分散していた庁舎機能を集約する形で建設された。交流や賑わいを創出する地域交流拠点として中心市街地の活性化に寄与することも視野にスカイウォークと呼ばれる上空通路で、隣接する商業施設と接続され、その先の北見駅、中央図書館まで天候に左右されずに歩行することができる。



3. 設計上の特徴

1・2階は市民利用頻度の高い窓口を集約するとともに、2層をつなぐ吹き抜けまわり各所に市民が気軽に立ち寄れる市民ラウンジがあり、賑わいがガラスカーテンウォールを通してまちなかに表出する。

2. 庁舎の概要

竣工：2020年9月30日
 建物規模：地下1階、地上7階建
 延べ面積：17,213㎡
 構造：SRC／S
 環境性能：ZEB Oriented（道内初）



〈2階市民ラウンジ〉

主な執務室の天井はH鋼の側面をコンクリートで被覆したSC梁とスラブによる構造体あらわしとしている。天井落下対策を図ることで地震時の業務継続を可能にするとともに、OAフロアの床下空間を活用した床吹き出し空調を採用し、居住空間を効率的かつ快適に空調するシステムとしている。

平面的には両端コアを採用することにより、フロアの端から端まで見通すことができ、目指す場所を視認しやすくしている。執務室はワンルームであるため、他課とのコミュニケーションがとりやすい。



〈執務室〉

4. 書かないワンストップ窓口

市役所の顔である窓口業務は、独自開発のITシステムで、記載台の無い空間を実現した。

書かない窓口とは、必要事項を職員が聞き取りしながら、申請書の作成を支援し、利用者は申請書の内容を確認して署名するだけで手続きが完了する窓口手続きであり、利用者の利便性を高めると同時に職員の業務効率も図られ、双方にとってメリットの大きい取り組みである。

また、最初に座った窓口で関連する手続きが済むため異なる課を回る必要がなく、ワンストップの対応となっている。

庁舎建設にあたり、約10年にわたって取り組んできた窓口業務改革の実現ということをテーマに設計・施工の各段階で動線や家具レイアウト、サインやサインを十分検討し、実装した。

書かないワンストップ窓口は、自治体窓口DXの先進事例として、注目を集めており全国自治体視察件数ランキングでは、2023年に67件で5位、25年においても46件で21位と、今なお高い関心を集めている。



〈1階窓口〉

5. 現在の都市再生事業

現在、都市再生事業は骨格軸である中央大通沿道の工事が行われている。令和6年度に休日夜間急病センターが完成。令和7年度に経済センタービル、分譲マンションが完成し、最終年である令和8年度は、高齢者福祉施設や広場などの工事が予定されている。

まちの活力を高めるには、これらの都市再生事業に加えて、中心市街地の有効活用が不可欠である。中心市街地は、都市機能である行政、医療、商業、交通、公園などの施設が集積し、歩いて生活ができるエリアである。ウォーカブルなまちは高齢者のみならず、幅広い世代にとっても快適な暮らしをもたらすものである。企業・行政・市民が、それぞれの持ち味を發揮し、中心市街地の有効活用を進め、市民生活の質を向上させていくことが期待される。



〈経済センタービル〉

6. さいごに

最後に、個人的な感想になりますが、「書かない窓口」は、これからの庁舎において標準装備になっても不思議ではない内容のものであり、今後、庁舎建設を行う方は、どのようなものかだけでも知っておくとよいと思います。

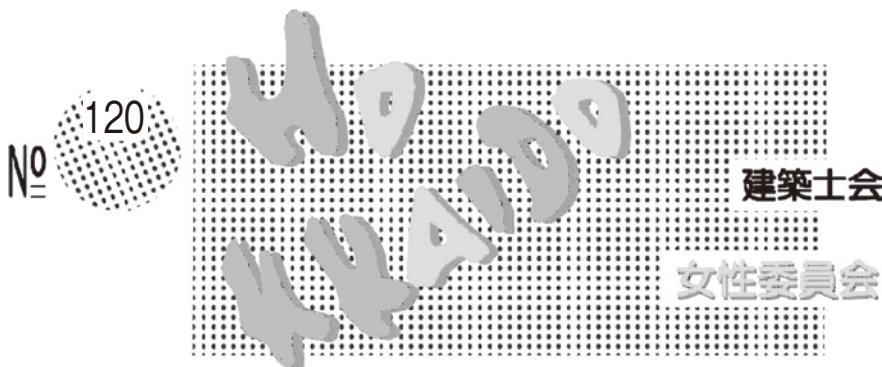
基本設計時には道内外の先行事例を視察しました。各自治体職員の皆さんは丁寧に対応してくれて、実物を目の前にしながら、うまくいった点、そうではない点など、いろいろと語ってくれました。「自分たちの経験を次の人が活かし、より良いものを作ってほしい。」皆さん、きっとそのような想いがあったのではないかと思います。私も同じ想いがありますので、見学をご希望の方はお気軽にご連絡ください。

「Think globally, Act locally」

未来に向けて共に頑張りましょう！

【受賞歴】

- ・北海道ニューオフィス奨励賞（ニューオフィス推進協会）
- ・北海道優秀照明施設賞（照明学会）
- ・全建賞（全日本建設技術協会）



つながりの中で見つけた 「自分の役割」

橋本 雪乃 (函館支部)

はじめまして。函館支部の橋本です。東興アイテック株式会社で、防水工事や外壁改修工事などを手がける建設会社に勤めています。前任者の転勤をきっかけに、昨年度より本部の女性委員会の活動に携わることになりました。

会社では、採用活動やDX化の推進、労働環境の改善、SNSを活用した広報業務など、多岐にわたる業務を担当しています。女性委員会の活動の中でDXについて興味を持っていただく機会があり、その取り組みの一つとしてRPAの勉強会を実施しました。RPAとはどのようなものか、何ができるのかといった入門的な内容ではありましたが、業務の効率化や働き方の見直しにつながる可能性について共有する時間となりました。

これまで建築士会で活動する中で、「建築士資格を直接使って仕事をしているわけではない」という思いから、どこか劣等感を抱いていました。しかし、女性委員会の活動を通じて、自分の仕事の経験や取り組みが、別の形で誰かの役に立つ場面があることを実感しました。建築の世界は設計や施工だけでなく、環境づくりや仕組みづくりといった支える役割もまた大切なのだと感じています。

建築士会は、専門性を深める場であると同時に、それぞれの立場や経験を持ち寄り、新しい気づきやつながりを生み出す場所でもあると感じています。これからも出会いや学びを大切にしながら、自分らしい関わり方で建築士会の活動を続けていきたいと思っています。

コミュニティに属している ということ

吉田 幸恵 (室蘭支部)

私は建築士会をはじめ、市民団体、PTA、町内会など、さまざまなコミュニティに属している。それぞれの場には固有の役割があり、求められる関わり方も異なる。

町内会では、順番が回ってきたことをきっかけに役を担った。消極的なスタートではあったが、今年は区長となり、月1~2回の回覧や広報誌の配布などの業務を行っている。ボランティアではあるものの、町内会費で維持されている道路の外灯やゴミステーション、そして子どもたちが幼い頃に参加させてもらった子供会のイベントなど、地域の暮らしを支える仕組みの恩恵を受けてきた。つかず離れずの距離感で支え合う暮らしは、確かな安心感をもたらしてくれる。

市民団体では、地域の古い建築の周知活動や、クルーズ船の出迎えを行っている。仕事や近所では出会えないような、個性的で魅力的な人々との出会いがある。好きなものや郷土愛に触れ、地元のために行っていることは自己満足に見えるかもしれないが、私にとっては「同志」のような関係性を生んでくれている。少人数の団体なので、広報、渉外、発信、集客、実施まで全員で担ってい



(室蘭港にて客船出迎え)

るが、後継者不足や資金、人材の課題を抱えながらの活動でもある。

こうした活動の中で常に悩ましいのは、イベントに参加してくれた人々を、いかにコアメンバーとして巻き込めるかという点だ。役割が曖昧で動き方がわからない、責任を負いたくない、「自分がいなくても回る」と思っている、参加の心理的ハードルが高い——理由はいくつもある。実際、私自身も名前だけ関わっている団体があるのも事実だ。

では、建築士会は自分にとってどうだろう。「若い人はメリットが無いから入ってこない」そんな声を耳にすることもあるし、自分自身もそう感じたことがある。しかし改めて考えると、建築士会は建築士として活動するうえで欠かせない情報や知識を与えてくれ、同じ業界で働く仲間と出わせてくれている。もし建築士会がなかったら、法改正の情報や他地域の取り組みを自分で探しに行かなければならない。自分の興味や視野の範囲だけで情報を集めると、どうしても得られる知識は狭まってしまうだろう。

また、個人で仕事をしていると、誰かに教を請いたいときや共通の話題を語り合いたいとき、SNSで呼びかけてつながれた人に限られてしまう。それは出会いの幅を狭めることにもつながる。全道大会や全国大会では、その地域の建築士や建築文化に触れる機会をもらえる。こうして建築士会から受けてきた恩恵を振り返る一方で、課題もあるのは事実だ。

全国女性建築士連合会で開催したワークショップでは、家庭や仕事の事情で「参加したくても参加できない」、あるいは「内容が自分ごとに感じられない」といった声が多く寄せられた。こうした意見に触れると、建築士会側の“参加しやすい仕組みづくり”や“内容の見直し”が急務であることを痛感する。

私が日々感じている建築士会の価値やメリットは、きっと若い世代にも必要であり、求めているはずだ。

最近SNS広告で「建築士の新しいコミュニティ」を見つけた。建築業務のスキルアップのための勉強会や意見交換の場があるという。建築士会は従来その役割を担ってきたはずだ。建築士会を選択してもらうためには、伝える機会や手段、そして見せ方を工夫し、継続的に発信していくことが必要だと感じている。

小樽支部

小樽支部青年委員会の活動について

青年委員長

佐々木 克幸



北海道建築士会の会員の皆さま、いつもお世話になっております。小樽支部の青年委員長を務めております佐々木と申します。

令和6年は小樽で開催しました「青年建築士の集い」にご参加いただき、誠にありがとうございます。当日は多くの皆さまと交流し、意見交換をすることができ、有意義な時間を共有することができました。無事に開催できましたことを、心より感謝申し上げます。

小樽支部の活動として、8月27日に青年部主催でビールパーティーを開催しました。当日はあいにくの雨天となりましたが、多くの皆さまにご参加いただき、会

場内は終始にぎやかな雰囲気になりました。催しとしては、バンド演奏によるライブパフォーマンスが披露され、演奏に合わせて手拍子が起こるなど、一体感のある時間となり、会場は大いに盛り上がりました。演奏後に行われた抽選会では、当選者が呼ばれるたびに歓声や拍手が上がり、終始笑顔の絶えないひとときとなりました。参加者同士の交流が深まり、皆さんには楽しんで頂けたと思います。

また、地域貢献活動としては毎年、「建築士の日」の取り組みとして、地域の幼稚園や保育所を訪問し、青年委員が園児たちと一緒に木製ベンチの塗装を行いました。最初は緊張していた子どもたちも、次第に笑顔が増え、完成したベンチを見たときには、大きな歓声を上げておりました。完成し

たベンチはいつでも使ってもらえるように寄附しており、子どもたちと建築やものづくりの楽しさを伝える良い機会となりました。

最後になりますが、今後も会員の皆さまと交流を深め、地域社会とのつながりも大切にしながら、有意義な活動を継続してまいります。今後とも、小樽支部及び青年委員会をよろしく願っています。



「建築士の日」ビールパーティー

北空知支部

北空知支部について

事務局長

星野 樹里



建築士会北空知支部は、深川市、沼田町、秩父別町、妹背牛町、北竜町、雨竜町の6市町の会員によって構成されています。

深川市は現在駅周辺で複合施設の整備が進められ、まちの新たな魅力づくりが進行しています。

沼田町は夜高あんどん祭りに象徴される歴史と文化が息づき、古くからの街並みや地域コミュニティが大切に守られています。

秩父別町は「キッズスクエアちっくる」や「ローズガーデン」など、子育て支援と花のまちづくりに力を入れており、公共施設の整備も積極的に進めています。

妹背牛町はスポーツと健康づくりのまちとして知られ、温泉やカーリング場などの体育施設が充実し、住民の交流の場として活用されています。

北竜町は全国的に有名な「ひまわりの里」を中心に、観光と農業を組み合わせた地域振興が進んでいます。

雨竜町は雨竜沼湿原に象徴される豊かな自然環境が特徴で、自然

と調和したまちづくりが求められる地域です。このように多様な地域性を持つ6市町の建築士が集い、それぞれの課題や魅力を共有しながら活動していることが、北空知支部の大きな強みとなっています。

支部の昨年度の活動としましては、3月には新しくなった葬斎場の視察見学を実施しました。地域に欠かせない公共施設である葬斎場について、構造や設備など学ぶ貴重な場となりました。また、8月には会員とその家族が参加する「建築士と仲間の集いビールパーティー」を開催しました。世代を超えて交流を深めることで、支部としての結束がより強まり、今後の活動への活力にもつながりました。

当支部の会員数は現在60名弱

で、他支部と同様に減少傾向が続いています。建築士資格の取得には高度で専門的な知識の習得と、実務経験を含む長期間の学習が求められるため、若手の参入が思うように進まず、併せて建築士の高齢化も問題となっております。さらに、北空知地域全体で人口減少が進行していることも深刻で、地域の建築士活動を支える人材も年々減っております。このままでは組織の維持や事業継続が難しく、将来的な存続にも不安が生じている状況であります。このような状態ではありますが、会員同士力を合わせて、これからも楽しく活動を続け、仲間と支え合いながら、一歩ずつ歩んでいければと思っております。これからも北空知支部をよろしくお願いいたします。



葬斎場視察



建築士と仲間のつどい

道士会の動き

本部の主な会議報告（2月）

- ◆第1回ヘリテージ・マネージャー特別委員会
（開催日）5日（木）
1）令和8年事業について
- ◆第1回総務委員会
（開催日）24日（火）
1）第1回理事会議案について

本部の主な行事予定（3月）

- 10日（火） 第1回理事会
- 19日（木） 第2回理事会・定時総会
- 21日（土） 全道青年委員会連絡会議

講習会・セミナーのご案内（3月）

建築士定期講習

4日（水）札幌市

監理技術者講習

11日（水）札幌市

CPD認定プログラム（2月認定）

- ◆第69回（令和7年度）北海道開発技術
研究発表会
《日程及び会場》2月19日（木） 10：45～11：40
北海道開発局研修センター
《単位数》 1単位
《問合せ先》
北海道開発局営繕部 TEL 011-709-2311（内線5780）
- ◆建築部会現場代理人研修会
《日程及び会場》2月20日（金） 13：00～16：30
ホテルニューえさし
/コミュニティプラザえさし
《単位数》 3単位
《問合せ先》
檜山建設協会 TEL 0139-52-1813

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



- 視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
- 3月パスワード：Kit065

編集後記

今月号の特集では、供用開始から5年を迎えた北見市庁舎と都市再生事業を取り上げました。道内初のZEB Oriented導入や、DXを活用した「書かない窓口」など、市民の利便性と環境性能を両立した先進的な庁舎の姿を紹介しています。また、女性委員会や各支部の寄稿からは、地域との繋がりを大切にする真摯な想いが伝わります。本誌が、建築の可能性を再確認し、次世代へ歩みを進める一助となれば幸いです。

情報委員会 山川 力（千歳支部）

令和8年

（一社）北海道建築士会会員作品の募集

応募対象

- ①対象建物
令和4年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その用途、規模等は問いません。ただし、確認申請を要しない建物は、検査済証は不要です。
- ②対象者
本会の正会員（応募建物の設計、及び施工管理者等、責任ある立場で建築に携わった者に限ります）
- ③応募作品 1人若しくは1グループで1点とします。

所有者等の了解

予め所有者、管理者等の了解を得てください。

応募締切

令和8年5月22日（金） 必着

応募資料

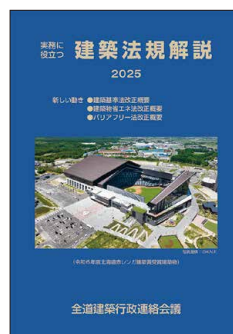
- ①申込書
所定の申込書を本会HPからダウンロードして記入してください。
- ②提出資料
図面（平面図・断面図・配置図等）及び完成写真（内・外装）等の画像データ3点と上記申込書を、CD-ROMに記録して提出してください。（応募作品は返却しません）

作品掲載

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し「北海道建築士No.349」に掲載します。

※詳細は、北海道建築士会HPをご覧ください。

実務に役立つ建築法規解説2025



「第57回建築基準法講習会」で使用したテキストを北海道建築士会本部窓口または、オンラインショップにて販売いたします。

価格：3,900円（税込）

販売開始：3月9日（月）～

在庫に限りがございます。ご希望の方はお早めにどうぞ。※詳細は、ホームページをご覧ください

情報委員会委員長／前田 繁
副委員長／村山 賢司・立花智亜喜
委員／奈良岡 修・山川 力
津山 浩・椋川 正人

北海道建築士 No.343号

発行 令和8年3月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011)251-6076番
URL https://www.h-ab.com/